

One for Children, All for Children

久我山青光学園

学園便り 6月号

校長 田島 忍

令和8年5月29日発行

一人一人の『できた』を大切に

副校長 堀越 貴美子

5月に入り、爽やかな日が続いておりましたが、近頃は気温の高い日も増え、いよいよ夏の訪れを感じる頃となりました。近年の気温上昇を踏まえ、本校では今年度より6月上旬から水泳指導を開始いたします。期間は1学期いっぱいとなりますが、子供たちの体調管理と安全確保を第一に、安心して活動に取り組めるよう努めてまいります。

さて、5月には個人面談を実施いたしました。御多用の中、御来校いただきありがとうございました。新転入生の皆さんも、新しい環境や担任に少しずつ慣れ、できることが増えてきています。「自分で着替えができるようになりました」「家庭でもすすんで手を洗うようになりました」といったうれしい報告もいただき、大変心強く感じております。本校では、こうした「できた」という経験を大切にし、その積み重ねを通して子供たちの力を育てていくことを重視しています。そのためには、一人一人の実態に応じたスモールステップによる指導が欠かせません。先日の授業参観においても、そのような学びの積み重ねの様子を感じていただけておりましたら幸いです。大きな目標を細かな段階に分け、無理のない形で取り組むことで、「わかった」「できた」という実感が生まれます。この実感こそが、子どもたちの自己肯定感を育み、次の学びや挑戦へと向かう意欲を支える原動力となります。

他者と比較するのではなく、その子自身の成長を丁寧に見取り、ともに喜び合いながら支えていくことを、これからも大切にしていきたいと思います。今後とも、本校の教育活動への御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

視覚障害教育部門 寄宿舎担当 志村 弘美 寄宿舎の生活について

今年度の寄宿舎生活がスタートし、約2か月が過ぎました。4月からの新入舎生も少しずつ寄宿舎での生活に慣れてきた様子です。

寄宿舎では自分の身の回りのことを自分で行う場面が多くあり、「自分でやってみよう！」とチャレンジしながら生活しています。

また、豊かな生活を送ることをねらいとし、季節行事等の取組も行います。5月には「端午の節句」に合わせ、多摩図書館の方による「おはなし会」がありました。これからも色々な取組を予定しています。

「端午の節句 おはなし会」



知的障害教育部門 生活指導部 片平 進之介 不審者対応訓練について

5月1日（金）、不審者対応訓練を実施しました。毎年、両部門の幼児・児童・生徒を対象に行っている訓練で、校内に不審者が侵入した場合の安全な行動について確認することを目的としています。

校内放送を合図に、子供たちは教室や校庭の安全な場所へ避難しました。教室では、ドアに鍵を掛け、窓を覆うなどして、安全を確保する行動を確認しました。

訓練では、不審者役の教職員の動きに応じて、子供たちは落ち着いて身を守る行動を取り、指示をよく聞きながら安全に過ごすことができました。

また、教職員も連携し、子供たちの安全を守るための対応手順を確認しました。

万が一の場面に備え、警察と連携するまでの動きについても実践的に学ぶ機会となりました。

訓練終了後、子供たちは、先生の話をよく聞きながら振り返りを行い、安全についての意識を高める機会となりました。